

南の国の「ナデシコ」税理士

成功へのキセキ

第33回 あなたへの贈り物

「ミナミの国の子供たちに、ミュージカルを届けよう!!」

去年の秋から企画し、今年のゴールデンウィークに、ついに実現しました。

普段、一緒に戸沢財団の活動をしている心魂プロジェクトのメンバーを、ミャンマーに連れて行こうというものです。

心魂プロジェクトとは、このエッセイに何度か登場したことのある元劇団四季のミュージカル俳優たちを中心としたNPO法人。

彼らは主に、難病のため病院で暮らす子供たち、学校にも行けない、ましてやミュージカルなど観たこともない子供たちに、生のパフォーマンスを届けようと、全国の病院を回っています。

昨年、児童養護施設の子供たちのために、「君たちは一人じゃない」というメッセージを込めたオリジナルミュージカルを作っていたなど、戸沢財団の大切なパートナーでもあります。

早いものでミナミの国にアカウンティングカンパニーを設立して、4年がたちました。ようやく仕事が軌道にのって来たな一と思える今日この頃。

折角ミナミの国に来たのだから、ビジネスだけではなく、ミャンマーに貢献したいと思うようになったのが、きっかけです。

とはいえ、ミャンマーの子供病院や、学校には何のコンネクションもありません。戸沢財団の活動を始めた当初も、児童養護施設やNPO法人に、「支援は必要ではありませんか?」といきなり声をかけて、訝しがられたりしましたが(笑)、かの国ではそんな突撃作戦もままならず。

ミャンマーにきている日本人は、あちらサイドから見たら、玉石混交です。彼らは日本人と似ているところがあって、とにかく新しいことにチャレンジするのは絶対にイヤ!というマインドの持ち主。

子供病院に歌やダンスを届けたいと言っても、著名人でない限り、怪しい団体と思われて、なかなか受け付けてもらえません。まずは、日本の実績や、公演の目的を書いた企画書を持って来てと言われ、英語の企画書を作るところからスタートです。

それでも、4年の間につちかった人脈をたどって、ヤンキン子供病院、ヤンゴン子供病院、ニューワールドという自閉症児のトレーニングセンターでの公演が決まりました。

ここでも最初は疑心暗鬼。企画書を提出し、無事に、保

健省での許可も取れ、やっと心魂プロジェクト・ミャンマー公演の実現に、確信を持つことができました。何しろ国立病院で、外国人のアーティストが公演するのは、ミャンマーでは初めてのことだとか。

その後は戸沢財団が以前からサポートしているドリームトレインという児童養護施設、ヤンゴン日本人学校、日本人が経営しているKhyaya Schoolというインターナショナルスクールと、6箇所がトントンと決まりました。

12月には、心魂プロジェクトの代表をミャンマーにお連れして、各施設の方がたと打ち合わせもバッチリです。

と、ここまでは順調だったのですが、そこからが、もっと大変でした。何しろ、イベントの企画など、やったこともないので、何をどう準備すればよいのか、分からないのです。

足りないものに気がつくたびに、大騒ぎ。メンバー全員のエアチケットやビザの手配に始まり、ミャンマーは電力事情が悪いので、停電に備えてジェネレーターも借りなければなりません。

通訳の手配、各会場に機材を運ぶためのクルマの手配、お弁当の手配。ツアーの間に土日を含むので、お弁当屋さんがお休みということに気づき、特別に懇意にしている日本食レストランに依頼。海外保険や成田に着くまでの、電車やバスの手配も忘れずに。

なかでも一番大変だったのは、6箇所全部のチラシづくり。各施設の子供たちに手描きで書いてもらいたい、ということにこだわったからです。6箇所共通のチラシをつくり、その裏面に子供たちの手描きものをPDFにして両面印刷しようというわけです。

しかし、日本語が通じる日本人学校と、英語で授業が行われるインターナショナルスクール、ミャンマー語しか通じないだろうと思われる子供病院では、公演内容も異なりますし、公演回数のリクエスト、当然に公演時間も異なるので、一体これをどうやって1枚にまとめたらいいいのか…。

それでも何とか私たち戸沢財団の想い、心魂プロジェクトさんの想いを込めて、原稿(←私が考えたのと、少し自慢)が完成しました。

さらに、これを日本語バージョンと英語バージョン、ミャンマー語バージョンに分けて、作成するという、私にはめっちゃ、ハードルの高いチャレンジです。

もちろん、素敵なこともたくさんありました。協力しようという企業が、いくつも現れたのです。6箇所全部の施

◆筆者 原 尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」で全国1位の成績を収め、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性のスタッフ約30名の規模にまで成長。一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に『小さな会社のための総務・経理の仕事がわかる本』『小さな起業のファイナンス』(いずれもソーテック社)、『51の質問に答えるだけですぐできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)』『トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)』『世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)』『一生食っていくための土業の営業術(中経出版)』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。



設で共用できるデザインを作ってほしいという無茶ぶりに応えてくださった The Minority Loud様。

水祭り(=ミャンマーのお正月)のお休み前には、各施設に配ってしまいたかったのに、すべての原稿が揃ったのは、やっと3日前。手描きものをPDFにしていたのですが、データが粗くてとても印刷できないなど、ここでも何度もやり直しが入ったからです。日本で言えば年末の繁忙期に、いやな顔一つせず、無償で印刷してくださった富士ゼロックス様。

出来上がったチラシを、丸一日かけて、各施設に運んでくれたフォーバル・ミャンマー様。感謝の気持ちでいっぱいです。さらには、日本大使館の後援までいただき、準備万端!!

と思ったら、そうは問屋がおろさないのが、「ミャンマーあるある」です。

開催1週間前には、ヤンキン子供病院から、公演回数や場所を変更してほしいと、リクエストが入りました。

えと、あの一、もうチラシも配ってしまったので、時間変更はできないと思うのですが…。

どうなの一、それ…^^

などなど、いくつもの困難を乗り越えて、ついにやって

来ました!
ミャンマー!!!

訪問先のスケジュールは、下記のとおりです。

- ① 5月2日 ヤンゴン日本人学校
- ② 5月3日 ヤンキン子供病院(心臓病や小児外科で入院している子供たちの病院)
- ③ 5月5日 The Khayay School(インターナショナル・スクール)
- ④ 5月6日 New World Therapeutic Training Center(精神的な疾患をもつ子供のためのトレーニングセンター)
- ⑤ 5月7日 ドリームトレイン(貧困のため人エイズや人身売買などのリスクから救われた子供たちが暮らす児童養護施設)
- ⑥ 5月8日 ヤンゴン子供病院(癌や腎臓病、脳の病気で入院している子供たち)

ミャンマーには、一般の子供たちでさえ、学校に音楽の授業がありません。ましてや言葉も、文化も違うミナミの国で、音楽を病気や障がいのある子供たちに楽しんでもらいたいという私たちの試みは、受け入れられるか。

果たして、その結果は?!

結論をいえば、大成功!!

慣れないどころか、やったこともないイベントコーディネートの仕事をして、「もう二度とやりたくない〜」と、バソをかいたことなど忘れてしまうほど、熱狂的に受け入れられたのでした!

詳しい内容は、来月のこのページで報告しますので、お楽しみに(!!)

好評
発売中

7人家族の主婦で1日3時間しか使えなかった私が知識ゼロから難関資格に合格した方法

原 尚美 著(中経出版) 1,300円+税

7人家族の主婦で1日3時間しか使えなかった私が知識ゼロから難関資格に合格した方法

アタマのいい人と勉強できる人は違います。勉強できる人は、点をとるコツを知っているだけなのです。どうすれば本番で実力以上の力を発揮して、難関試験に合格するための、超合理的な、大人の勉強法について書いたものです。

がんばっているのだけれど、なぜか結果のでない方、勉強したいのに、仕事が忙しくて時間がとれないビジネスパーソン、今よりひとつ上の人生を目指したくて、悩んでいる方、このまま家庭の中だけに埋もれてしまいたくない子育て中のママ、そんな皆さんへの応援の気持ちを込めた一冊です。

合格率10%以下の難関資格にストレートで合格した驚異的なメソッド公開!

勉強が苦手、得意な科目、得意科目、得意科目から、どんな資格も目指せる!